

「若狭湾 海の自然学校」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
20	52	20	20 (大阪4・福井3・京都3・岐阜2・三重2・愛知2・滋賀1・奈良1・兵庫1・神奈川1)

2. 事業内容 (概要)

◆ねらい

- ・長期宿泊体験を通して、仲間の協調性を養うと共に、活動意欲を向上させる。
- ・自然に直接触れ合う活動を多く取り入れることにより、遊び心を刺激し、前向きに挑戦する姿を育てると共に、自然環境に対する畏敬の念を育てる。
- ・海の冒険シリーズ①(「キッズ海のたんけん」)より高学年を対象とすることで、海とのかかわりや、チャレンジレベルを拡大し、広い視野を持った人間性を育てる。
- ・当施設のフィールドを広く工夫活用し、その活用法を、他の教育施設や一般利用団体にも広く普及することを目指す。

◆期日・期間

2011年8月20日(土)～2011年8月28日(日) <8泊9日>

◆後援・協力団体

福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会

◆参加者分析

- ・地元福井をはじめ、関東・北陸・中部・関西と広範囲から52名の応募があった。
- ・事業の内容・ボランティアスタッフの人数などを考慮し、6年生10名・5年生6名・4年生4名に配分し、抽選し決定した。

◆企画のポイント

月 日	内 容	宿泊場所
8月20日(土)	仲間との出会い① <始まり式、オリエンテーション>	宿泊棟
21日(日)	仲間との出会い② <目標設定、テント設営>	磯崎(テント泊)
22日(月)	海との出会い① <スノーケリング&シーカヤック練習①>	宿泊棟
23日(火)	海との出会い② <スノーケリング&シーカヤック練習②>	宿泊棟
24日(水)	無人浜での生活① <阿納の浜でのキャンプ①>	阿納
25日(木)	無人浜での生活② <阿納の浜でのキャンプ②>	阿納
26日(金)	無人浜での生活③ <無人浜での生活の振り返り、片付け>	宿泊棟
27日(土)	総まとめ① <反省・ふりかえりの会>	宿泊棟
28日(日)	総まとめ② <達成証授与式、終わ式>	

「シーカヤック」講師 グランストリーム 大瀬志郎・久我弘道 氏

- ・「海」を中心に、アクティブな活動にチャレンジさせられるようなプログラムを準備した。
- ・9日間の指導を一貫したものとするため、活動のテーマを「海の冒険王」と題して、海のダイナミックさを十分に感じられるようにプログラムを構成した。

◆運営のポイント

- ・終日参加できるボランティアスタッフが5名いたので、班付きリーダー各1名および全体指揮リーダー1名で、システムを組み運営した。途中から参加するリーダーについては全体運営のサポートに回り、全体指揮および班付きリーダーを援助した。

- ・全体運営のスタッフが子どもたちと距離が離れてしまわないように、これまで職員が行ってきた様々な指示伝達をすべて任せて対応した。
- ・子どもたち同士による人間関係の成長を促すため、課題解決等じっくり取り組ませることを心がけ、班での話し合いや打ち合わせの時間を十分にとりながら進行していった。

◆安全管理のポイント

- ・昨年よりは実施時期が8月後半になったため、悪天候による実施の判断を十分に注意しながら、物資の準備も含め、活動中でも臨機応変に対応できる体制作りにつとめた。
- ・海の活動では、命に関わる事故・けがが十分考えられるため、経験を十分に積んでいる専門家に指導・助言いただき、的確な状況判断と参加者の安全管理につとめた。
- ・参加者の健康状況を常に把握し、負担にならぬよう随時細かな変更をしながら実施した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	75%	25%	0%	5%
この事業のプログラムはどうでしたか	65%	20%	15%	0%
この事業の運営はどうでしたか	60%	40%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・友達が優しいし、ボランティアの人も優しい。
- ・自然にふれあうことができ良かったし、自然はすごいということがわかった。
- ・1人じゃできなかったことも、みんなでやるとできることもあるんだと思った。
- ・これは、自分自身を強くしてくれるんだと思った。
- ・このキャンプで、自分のことは自分でできるようになれて良かったです。
- ・何かの目標に向かって突き進むこと大切さを学んだ。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・4班編制を実施したことにより、参加者一人一人が役割を担いながら、責任感を持たせて活動することができた。
- ・4班編制の小集団で、リーダーを1名班付きにし、細かな指示やアドバイスをすることで、参加者が、意欲的に楽しく活動することができた。また、安心安全にも活動することができた。
- ・若狭湾の「海」を存分に感じさせながら、大自然の中で生活する時間を多くとり、参加者の探求心や興味関心を十分刺激できるような活動となった。
- ・竹食器作りや流しそうめんなど、規制の物品を使用しないことで、竹本来の素材を生かしながら、創意工夫によって作り出す楽しさを感じ、また、自然に対する優しさも感じてくれたことは有効であった。
- ・昨年および一昨年の「キッズ海のたんけん」に参加したメンバーが2名いた。高学年として参加した「海の自然学校」で、海とのかかわりについて、活動エリアの拡大にともない、チャレンジレベルも上がり、興味関心を高めることができた。また、意欲的な態度で活動への参加を促すことができた。また、より海を様々な角度から感じることで、親への手紙やまとめの中で、感想の広がりを見ることができた。
- ・トビーホール展望台の夕日・漁り火観察、赤石の浜スノーケリングなど、研修支援で活用できるプログラム開発として、有効であった。

(2) 課題

- ・工夫したプログラムについて、いかにして発信していくかの整理が課題となる。
- ・物品の片づけは例年に比べ参加者に対してかなり割り振ったため、職員による負担を軽減することができ有効であった。ただ、準備について職員の負担は致し方なく、1ヶ月前からの余裕を持って臨みたい。また、阿納現地での作業については、担当以外の協力は不可欠で、事前に綿密な計画が必要である。

5. 活動の様子



【目標設定】



【テント設置訓練】



【竹食器作り】



【スノーケリング】



【赤石の浜でのジャンピング】



【シーカヤックで無人浜へ】



【無人浜生活①】



【無人浜生活②】



【無人浜生活③】



【無人浜生活④】



【流しそうめん】



【若狭クルージング】



【キャンプファイアー】



【達成証授与式・終わり式】